

「第2回 海辺のあそび勉強会」報告書

■開催日時：2013年12月8日（日）9時30分～14時

■開催場所：本センター施設および葉山町大浜海岸・小磯脇の海岸

■参加者：15名

内訳：幼稚園教諭および関係者 12名

海辺の自然体験活動指導者研修生および大学生 3名

■講師：中尾 薫（おうちえん telacoya921 主宰）

海野 義明（本センター代表理事）

■指導及び事務局（記録含む）：5名

■講座内容：

午前（担当：海野義明）・・・（海辺の）自然体験活動の必要性和現状について、フィールド実習
（漂着物から考えるワークショップ）

昼食時・・・おうちえんスライド Telacoya921 の日々の園の活動スライド

午後（担当：中尾薫）・・・ワークショップ①「発想力を鍛えよう」（各自、発表）

ワークショップ②「フィールドから広がるイメージ。実践で役立つ学びを考えよう」（グループワーク、発表）

■感想（ふり返り）

○葉山公園は、園の子ども達と普段も一緒に来ているところであるが、今回の講座で、漂着物についてこういう見方をすることを初めて伺った。子どもへの伝え方を工夫して、もっと生き物や漂着物を子どもたちと触ったりしていきたい。

座学の時の「発想と鍛えるワークショップ」において、9 桁に遊びの方法を書くような学びは、今日初体験だったが大変いい経験だった。

○全体的として、今回の勉強会は奥が深いと感じた。座学の方では、柔軟性が大事だと感じた。子どもたちと対応している時に、何かあったときにも、瞬間的に行動できる保育者でなければと思った。

○埼玉県幼稚園を退職し、今、逗子市と葉山町の 2 園で仕事をしていて、改めて、今見ている子どもたちの遊ぶ環境が如何に素晴らしいか、そこで働いていることがありがたいと感じた。もっと子どもが海のことを好きになり、楽しく遊べるために自分にできることは何かを、更に考えていきたい。

○初めて海のことをじっくり見た。石に穴の開いている理由を知り、子どもたちにも伝えたいし、自分が学ぶ楽しさがあった。

（おうちえん Telacoya【以後、おうちえん】の子どもたちが遊んでいる映像を見て）自分は、決まっていることを伝えていくことが多いが、おうちえんの子どもたちの様なこういう（自由な指導）関わり方や遊ばせ方があるのだと思った。

自分自身は、シーグラスを夢中で拾い、こういう時間がいいなと楽しんだ。

- 今、職場で接している子どもたちは、本などで海のものを見たりすることはあっても実際に触ることはない。風を感じたり、寒いと感じることはできないが、もっと海を近くに感じてもらうために、邪魔にならない所に、海で拾った物を飾り見せて、少しでも興味をもってもらうようにしたい。自分の興味が具体的になるよう、繋げていきたい。
- 目からウロコという感想で、参加できて良かった。どうしてこうなのか、普段の保育で疑問に思っていることがあり、今日の学ぶ中で興味深かった。
今は一人担任で、他のクラスの子どもについて複数の保育者で関わっていない。今のやり方が変わるように深めていきたいので、今度また参加したい。
- ハマゴウの種は、いい香りがして幸せな気分になった。五感をいろいろと使っていることが、幸せな気持ちになる（根になる）。発想力は筋肉と一緒に、鍛えなくてはと思った。
- 子どもたちから発信の「てらこやのやり方」は、実践でやっている様子が自由でいい。自由だが、放任ではなく適した配慮の元、行われていた。これは海だからできる、というのではなく、自分の職場の保育園でも取り組めることをやっていきたい。
大人の視点をかえれば、屋外の話だけでなく、室内でも遊びは広がっていく。職員間で意識を統一させて、見えるようにしていかななくてはと思った。
今日も学べて様々な方々と交流ができてよかったです。
- 今日の講習のフィールドは自分たちも良く知っていて分かっている所だったので、改めてどんな話が聞けるか楽しみにしてきた。
9 柵に遊びを入れていく研修は、発見していくことが難しいのを体験した。一緒に海に連れていく職員皆が、生き物などの知識を付けていく研修でこの方法もやっていきたい。
- 自分の知識に空きがあることを思い知った。普段モンテッソーリを取り入れている幼稚園なので、自分のアイデアを、縮めてそぎ落としてきた。9 柵に遊びを入れる研修で、ペンが止まってしまふ自分に驚いた。自分のアイデアの引き出しを一杯に入れていきたい。
- おうちえんの子どもたちが、海で泳ぐ動画を見て懐かしいと感じ、またやりたい気持ちがよみがえった。おうちえんの遊ぶ子どもたちの様子を見て、ヒントを沢山もらった。自分たちの地域でこのような勉強会の企画をしてくれて、近くの間があることが分かり、心強いと感じた。
- 午前の講座は、漂着物を学べ、生きもの好きなので良かった。まだ学生の立場なので、幼児には直接関わりがないので、今日は自分が楽しませてもらい、別の立場の人たちの意見を聞いて新鮮、勉強になった。
- 楽しかった。皆さんと会えたことが嬉しかった。午前中は海に入ってしまった。拾った物を人工物と自然物の物に分けることで、自然全部の繋がりを感じ、子どもと接していきたい。今後も皆さんと連絡を取りたい。
- 現在、海や海での活動について学んでいる研修生として参加している。午前の講座は、海を学ぶ上での引き出し作りのヒントとなった。自然の中で子どもを遊ばせるための生きた言葉を聞いて、幼児教育はいいな、と思った。子どもと関わり合うのには発想力が必要だと感じた。
- 幼児教育に携わる方（子どもことを心から考えて、楽しい時間をすごしたいと思う人たち）と一緒に過ごせて楽しかった。どこに面白さを感じているのかが分かってよかった。（研修生）

※1 名、ふり返り前に退出

■活動風景



午前の講座始まりの挨拶とガイダンス



海の話と漂着物（海岸の打ち上り物）
観察と講義



漂着物の里分け。海から来た動物・植物、
陸から来た自然物・人工物についての講義



午後の講座、ワークショップ①「発想
力を鍛えよう」についての講義と実践



ワークショップ②「フィールドから広がる
イメージを作ろう」講義と実践



講座「ふり返り」風景